第２回丹波市市民憲章検討委員会議事録（摘録）

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 平成30年12月18日（火）午後2時00分開会～午後3時35分閉会 |
| 開催場所 | 丹波市役所本庁中会議室 |
| 出席者 | [委員]  玉岡かおる委員長、荻野祐一委員、酒井礼子委員、坂谷高義委員  [ファシリテーター]  山本浩史氏  [丹波市]  副市長  [事務局]  企画総務部政策担当部長、総合政策課長、担当者 |
| 欠席者 | [委員]  足立純子委員、安田和仁委員 |
| 傍聴者 | なし |
| 次第・資料 | １　開会  ２　あいさつ  ３　協議事項  (1) タウンミーティングの概要及び展開について  参加者を５つのグループに分けて、グループワークを行う。自分たちの思いから、グループとして「未来の丹波市に贈りたいことば」を導き出す。  【資料１】市民憲章タウンミーティング実施要領（案）  【資料２】タウンミーティング会場配置図  【資料３】ワークシート  ＊ ことばとは、単語（例：ありがとう）や短い文章（例：美しい里山）を指す。  (2) 市民憲章文の作成方法について  【資料４】市民憲章の表現、構成及び作成方法  (3) その他意見交換など  ４　その他  第３回検討委員会開催日程  平成31年　　月　　日(　)　　午後　　時　　 分  ５　閉会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議摘録 | |
| 発言者 | 発言の要旨 |
| 委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  委員  委員  事務局  委員  事務局  ファ  委員  事務局  委員  事務局  委員  委員  ファ  委員  事務局  委員  事務局  委員  副市長  委員  事務局  委員  委員  ファ  事務局  委員  事務局  委員  ファ  委員  事務局  委員  事務局  副市長  事務局  事務局  委員  事務局  委員  副市長  委員  事務局  委員  副市長  ファ  委員  事務局  委員 | １　開会  所用により、足立純子委員と安田和仁委員が欠席されます。  ２　あいさつ  (1) 副市長  丹波市副市長の鬼頭でございます。お忙しいなか、出席を賜りありがとうございます。  第１回目にいろいろと意見交換いただきました。市民の意見を伺うためタウンミーティングを1月に予定しているところです。各委員様の内には、将来の丹波市あるいは丹波市民がどうあるべきかという思いやそれを表した言葉・イメージがおありかなと思いますが、それが丹波市民と同じ方向なのかを確認していただく作業が必要だと感じています。皆様が思い描かれている思いを直接市民に確認いただく機会として、タウンミーティングを開催するものです。そのための意見交換、また市民憲章そのものについても忌憚のない意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。  (2) 委員長  年末の忙しい時期にご苦労様でございます。市民憲章を作るというのは、節目にもなりますし、今までになかったものを作るということで、非常に大きな事業に関わらせてもらっています。副市長のあいさつにもございましたが、市民の思いや心が集約されていないといけないものですので、本日も気合を入れてご意見を出していただければと思います。  ３　協議事項  (1) タウンミーティングの概要及び展開について  資料１、資料２、資料３に基づき説明する。  タウンミーティングの際、委員はどういう立ち位置か。  各委員は、グループのなかに入っていただいて、各委員の意見をグループに反映させていただきたい。  傍聴ではなくて、一参加者として参加すればいいですね。  各委員様には、グループ内には中学生や高校生も参加するので、ヒントを投げかけたり意見を引き出したりするようなこともご配慮いただければと思う。  一般公募者13人のうち、高校生は何人か。  6人いる。  参加者が“いいね！”を持ち寄る形式はあるのか。それぞれが自由に持ち寄るよりも何かしっかりしたものがあるほうがよいのではないか。  写真や動画など、それぞれの思いが伝わる方法があると考えている。  会場の配置図を見ると、第一印象としては小さい会場で少人数だけでやるように感じてびっくりした。傍聴席も少ない。たった５グループ３３人で決めてしまうことになる。これだと、市民総がかりでということとかけ離れている。事前に市民から“いいね！”の募集することはできないか。そうすると、中学生や高校生でも発言しやすくなる。  また、中学生というのも「平成16年度に生まれた」を強調してほしいし、一般公募者に高校生を含んでしまうのではなく、高校生として表記してほしい。市内の高等学校すべてから参加いただけるよう再度働きかけてほしい。併せて、大人も7人だけでは少なすぎるので、せめて10人になるよう大人の方々も再度働きかけてほしい。  そうですね。傍聴席は増やすことができる。高校生や大人の方々に再度呼びかけることもできる。市のフェイスブックや防災無線を活用して、呼びかけたい。  ぜひ市民総がかりと言えるようなタウンミーティングにしたい。  円卓は数を増やして総勢80名は入れる。  タウンミーティングの内容が市民に浸透しているとは言えない。傍聴できることを周知してほしい。  事前の“いいね！”は、会場に貼り出しておいてほしい。タウンミーティングという言葉もサブタイトルを付けて、「市民総がかりで決める市民憲章タウンミーティング」とすればわかりやすい。「市民総がかり」はいい言葉だ。  高校は３校とも足を運んだのか。再度働きかけてほしい。  足を運んで説明した。再度対応したい。  タウンミーティング終了後もフェイスブックなどで、こんなタウンミーティングだったということが分かるような仕掛けも考えてほしい。  考えたい。ファシリテーターから説明や補足はないか。  これまでの職歴で、初めて顔合わせする子どもたちと一緒に活動する取組をしてきた経験がある。また、自身も丹波市民であるので、タウンミーティングで特に若い世代の意見や想いを引き出せたらいいと考えている。  会場は、非常に雰囲気のいい会場であるが、80名以上は耐震上問題がある。円卓は10台まで可能で、1つに6人で合計60名といった要件に合う会場である。  事務局とは事前の打ち合わせでシミュレーションしてみて、タウンミーティングの冒頭で設定やルールを説明する必要があると感じている。ただ、設定説明の前にアイスブレークを設けるほうがいいとも感じている。  また、１グループ当たりの人数が多くなると一人ずつの発言時間が少なくなるので、グループに7人が限界で、グループ数を増やすと発表時間が長くなる。  円卓を増やすと、傍聴席に入りきらない可能性もあるので、別の部屋にビデオ中継することは可能か。  同じフロアに別の部屋があるので、可能ではある。  中学生や高校生が参加するのであれば、小学5・6年生であれば参加できるのではないか。  小学生は、“いいね！”は出せるとは思うが、当日のタウンミーティングで一つのことばに導き出していく作業は現実的にむずかしいと考えた。  歴史的な作業であるので、各地域１人ずつでもいいので小学生が参加できないか。  事前の“いいね！”募集を呼びかければどうか。  小学生を参加させるなら、世代を分けて別日にタウンミーティングをやるべきだ。  各地域１人の参加があったとしても、グループに小学生が１人となる。十分に自分の意見が言えるのか、また議論の輪に入れるのかを考えれば、難しいと感じる。  別日にすると市民総がかりではなくなるので、やはり１回でやるべきだ。小学生がいてもグループ内で助け合うことも考えられる。  中学生は平成16年度生まれという意義を持たせているので、中学校長に派遣依頼をしている。小学生は、これからの募集案内に手が挙がってくれば、参加いただく方向としたい。小学生に対しては、市教育委員会とも相談して決めていきたい。  中学生・高校生はぜひ参加いただきたいが、小学生は呼びかけを行うという方向で。  設定説明やアイスブレークの順序や、グループ数・グループ分けはファシリテーターと事務局で考えていってよいか。  それでよい。  グループ数が増えると、委員が６名であるので、委員の入らないグループができる。そこに例えば市職員が入るといったことは考えなくてよいか。  そこまで設定する必要はない。委員と市職員では立場も違うし、行政誘導の印象はよくない。  若い職員が一市民として参加することはどうか。  それはよいのではないか。  展開１や展開２の様子が、別室で分かるような工夫はできるか。議論の見える化に配慮する必要がある。  最後の発表の際に、議論の過程がわかるように説明いただくように設定したい。  展開１と展開２のときは、別室で中継をご覧になっている方にも順番に会場に入っていただけるような仕掛けを考えたい。  当日の記録としてのビデオは入るのか。  音声だけではタウンミーティングの様子が分からない場合があるので、中継や拡大掲示用のビデオ映像をそのまま記録用に使いたい。  その記録映像を短く編集していただいて、フェイスブックなどに後から掲載いただくことで、話題作りにもなるのではないか。  事前に集めた“いいね！”は、手元資料として配布するのではなくて、できればパネルに貼り付けるなどして展示いただきたい。  事前に集まった“いいね！”をあらかじめ送付いただきたい。  集まり具合も見ながら、検討したい。  一般参加者が少ないので、掘り起こしのために周囲に呼びかけてよいか。  お願いしたい。  プロセスが重要であるので、ぜひ再度市から多くの参加を呼びかけたい。  年内には当日の参加者を確定させたい。  (2) 市民憲章文の作成方法について  資料４の内容によらず、タウンミーティングの検討に引き続き協議する。  市民総がかりに見合うように、①“いいね！”をフェイスブックやホームページ、“いいね！”箱で募集する、②大人の方や高校生の参加を促す、③当日の傍聴ができることをPRする、の３つを対応したい。  タウンミーティング後の第３回には、“いいね！”の分類や数のまとめ、タウンミーティングで出された文面、たたき台の文章を事務局で作っていただきたい。スタイルをどうするのかも、そのたたき台で提案いただきたい。  たたき台を作るときに、市内にお住いの委員に相談や助言をいただきながら案を作っていくのはどうか。  いいのではないか。たたき台があれば、委員会を開催して２時間に区切っての勝負ということで議論できる。  事前の“いいね”を募集し、タウンミーティングを開催して出てきた言葉をどのような形式でまとめていくのかは、今日あらかじめご意見を伺っておくほうがいいか。  言葉は、あまりまとめずに素材として出していただくだけでよい。  “いいね”の募集は、タウンミーティングまでとしてよいか。  タウンミーティングが収穫の場であるので、タウンミーティングまででよい。むしろ、19日で歴史的なことが決まっていくということをアピールしておくのがよい。  市が大切と考えている氷上回廊（生物多様性や寛容性）などが、若い世代が大切にしたいことと共有できているか自信はない。行政がいくら大切と考えていても、言葉として出てこなければ、市民憲章に盛り込みようもない。そういう意味では、事前の“いいね”が広くたくさん出てくればありがたい。  “いいね”はたくさん集まるほどいいので、市職員を始め広く呼び掛けてほしい。  資料４に文体のスタイルをいくつか挙げてもらっているので、タウンミーティングで出てきた言葉から、それにふさわしいスタイルを考えるのがよい。  (3)その他意見交換  前回に示した資料にある「目指す市民憲章」ですが、「この地に生まれ、育てられたことを誇りに思えるものであること。」との表現のうち、「この地に生まれ」というのが当たらない市民の方もありますので、「このまちで共に生きていることを誇りに思えるものであること。」としてよいか。  それでよい。  ４　その他  第３回委員会の日程は、別途調整する。 |